



▲写真 E-008
 とうのくま
 当ノ熊のエノキ
 根元近くで2分岐する。



▲写真 E-009
 枯死・松ヶ崎のエノキ
 (写真・渡辺典博)



▲写真 E-010
 つつじ
 枯死・筒路の大エノキ
 (写真・Web画像)



▲写真 E-011
 いいやま
 枯死・飯山のエノキ
 (写真・Web画像)

20, クワ科の巨木 Moraceae

■クワ科の巨木は以下に分類する。

A ヤマグワの巨木 B アコウの巨木 C ガジュマルの巨木

20-A

ヤマグワ(山桑)の巨木 クワ科クワ属 Morus bombycis

※巨木は、養蚕用に栽培されたものが巨大化したもので、マグワもあるが、本書では区別しない。小笠原にあったオガサワラグワの巨木は戦時中にほぼ伐採された。東京都御蔵島に多くあった島桑(ハチジョウグワ)も、木目が美しい事から、巨木の多くは伐採された。明治43年に制作された、幅80cm縦3.5mの一枚板が残されている。

■ヤマグワの巨木評価基準

- A 幹周おおむね5m以上の単幹樹、同等評価のヤマグワの巨木。
 B 幹周おおむね4~5mの単幹樹、同等評価のヤマグワの巨木。 C B評価以下のヤマグワの巨木。

■主なヤマグワの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	薄根の大クワ 写真 YK-001	M5.26m(0.3m 2016)	13m	群馬県沼田市石墨町2083	国
B	羽吉の大クワ 写真 YK-002	M5.2m(分岐0.5m 2012)	7m	新潟県佐渡市羽吉	国
B	山上の大クワ 写真 YK-003	4.1m	10m	山形県米沢市三沢北畑11441	県
C	六日町の桑の木 写真 YK-004	M3.25m(1.3m 2012)	14m	青森県三戸郡三戸町六日町29	県
B	恵美寿神社のクワ 写真 YK-005	株周4.7m	8m	北海道小樽市祝津3丁目161	道
C	鍬不取の老桑樹 写真 YK-006	3.6m	6.4m	長野県下伊那郡泰阜村三耕地2872	村
C	新田本陣のクワ 写真 YK-007	M3.23m(1.3m 2015)	12m	群馬県吾妻郡高山村中山字新田	なし
C	大野原のクワノキ 写真 YK-008	株周4.0m(0.2m)	11m	佐賀県嬉野市嬉野町岩屋川内	市

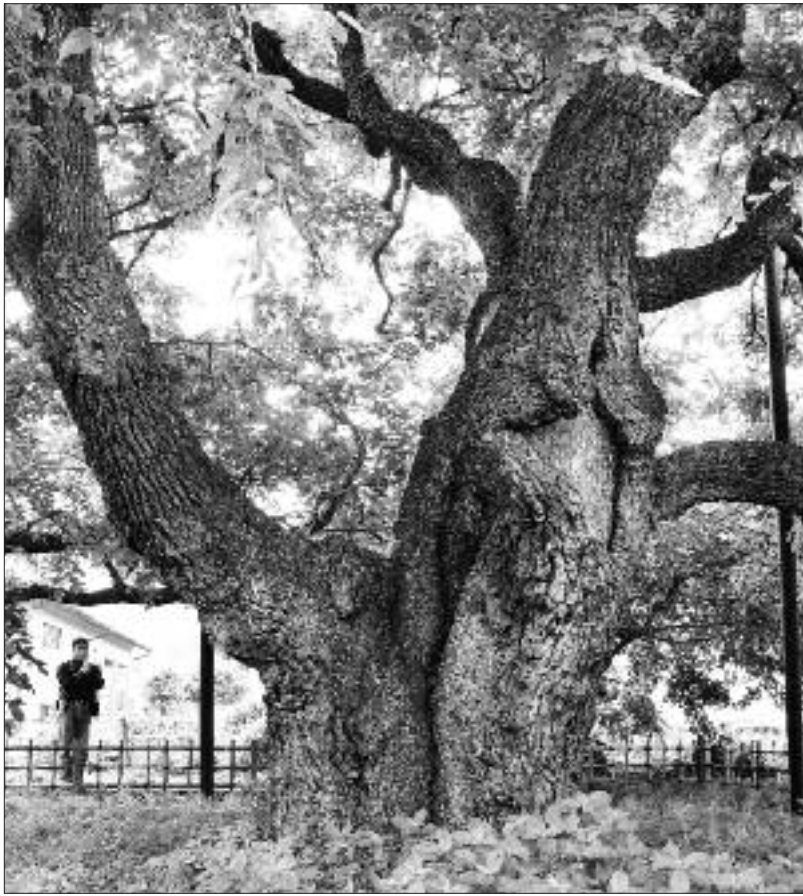


写真 YK-001 日本一のヤマグワ

うすね
薄根の大クワ

幹周の公表値が様々存在する。その原因は、地上1mで3分岐する樹形にある。

- 幹周 7.97m(現地記載・分岐幹合計周囲か?)
- 幹周 7.24m(巨木DB・測定方法不明)
- 幹周 5.0m(旧環境庁記載・昭和中期に地上0.5m程を測定か?)
- 幹周 6.05m(Web記載・地上1.3m部分の広がった部分を測定か?)

左写真で判明するように、主幹の大きさを表現しているのは、地上0.5mまでの幹である。

1686年の検地の折り、この大クワを検地の標木にしたというから、樹齢も大変なものだろう。一説に樹齢1500年という。この大クワは、この地方の養蚕の神として崇められていた。



◀写真 YK-002

はよし
羽吉の大クワ

大小3分岐していた樹形であるが、最大幹が枯死し、白骨化して残っている(写真手前)。国指定時は壮大な樹形であったろうが、現在は小さくなっている。



写真 YK-003▶
山上の大クワ

(写真・Web画像)



▼写真 YK-005

えびす
恵美須神社のクワ

根元3分岐の樹形。
(写真・Web画像)



写真 YK-004▶
むいかまち
六日町の桑の木
見事な単幹ヤマグワである。



▲写真 YK-006
かまとらづ ろうそうじゅ
鎌不取の老桑樹
(写真・Web 画像)



▲写真 YK-008
おおのほら
大野原のクワノキ

根元 3 分岐樹形。(写真・Web 画像)

◀写真 YK-007
しんでんほんじん
新田本陣のクワ

「新田本陣の大ケヤキ」がある、旧家の屋敷内、ケヤキの近くに立つ。見事な単幹樹で、5m で 2 分岐する。葉の大きさから、ヤマグワではないようで、正確な樹種の特定ができない。

20-B アコウの巨木 クワ科イチジク属 Ficus wightiana

※暖地の沿海地に生え、幹から多数の気根を出し、グロテスクな樹形を形成する。巨木のほとんどは気根の集合体である。従来は幹周表記であったが、これでは、実態を表現できない。本書では株周表記になる。しかし、稀に幹の詰まったものがあり、これらは明確に区別され、評価されなければならない。

■アコウの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 13m 以上の単幹樹、同等評価のアコウの巨木。
- B 幹周おおむね 10~13m の単幹樹、同等評価のアコウの巨木。
- C B 評価以下のアコウの巨木。

■主なアコウの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	信楽寺のアコウ 写真 A-001	M13.78m(1.3m 2009)	15m	鹿児島県指宿市西方	なし
B	永目神社のアコウ 写真 A-002	11.2m	15m	熊本県上天草市姫戸町姫浦	県
B	五島玉之浦のアコウ 写真 A-003	株周 18.3m	14m	長崎県五島市玉之浦町玉之浦	県
B	真乙姥御嶽のオオバアコウ 写真 A-004	株周 12.2m	12m	沖縄県石垣市新川	なし
B	奈良尾のアコウ 写真 A-005	株周 12.0m	25m	長崎県南松浦郡新上五島町奈良尾	国
B	五島檜の浦のアコウ 写真 A-006	株周 11.2m	15m	長崎県五島市平蔵町	県
C	産湯川のアコウ 写真 A-007	株周 11.1m	14m	和歌山県日高郡日高町産湯	なし
C	池下のアコウ 写真 A-008	株周 10.2m	12m	長崎県諫早市飯盛町池下	市
B	鬼丸神社のアコウ 写真 A-009	10.0m	25m	鹿児島県肝属郡南大隅町根占川北	町
C	秋目のアコウ 写真 A-010	株周 9.3m	11m	鹿児島県南さつま市坊津町秋目	なし



写真 A-001 日本一のアコウ
信楽寺のアコウ

日本一のアコウは、長崎県奈良尾町のアコウ(幹周 12.0m)とされていたが、鹿児島県指宿市の「信楽寺のアコウ」が幹周 13.78m あることが判明し、日本一になった。これまで幹周 11.0m とされ、全国四位であった。

信楽寺の墓地入口にあり、隣は指宿報国神社がある。昔から船頭が航海の目安にしたという。現在は住宅に阻まれている。墓地の奥にも巨大なアコウがあり、こちらは幹周 10m 程か。仁王様のような威圧感のある樹形で、何の指定もされていないようだ。調査すればもっと大きなアコウが出てくるかもしれない。



▲写真 A-002
永目神社のアコウ
(写真・Web 画像)



▲写真 A-003
五島玉之浦のアコウ
(写真・Web 画像)



▲写真 A-004
真乙姥御嶽のオオバアコウ
(写真・Web 画像)



▲写真 A-005
奈良尾のアコウ
(写真・Web 画像)



▲写真 A-006
五島檜の浦のアコウ
(写真・Web 画像)



▲写真 A-007
産湯川のアコウ
(写真・Web 画像)



▲写真 A-008
池下のアコウ
(写真・Web 画像)



◀写真 A-009
鬼丸神社のアコウ
(写真・石田徹)

写真 A-010▶
秋目のアコウ
(写真・Web 画像)

